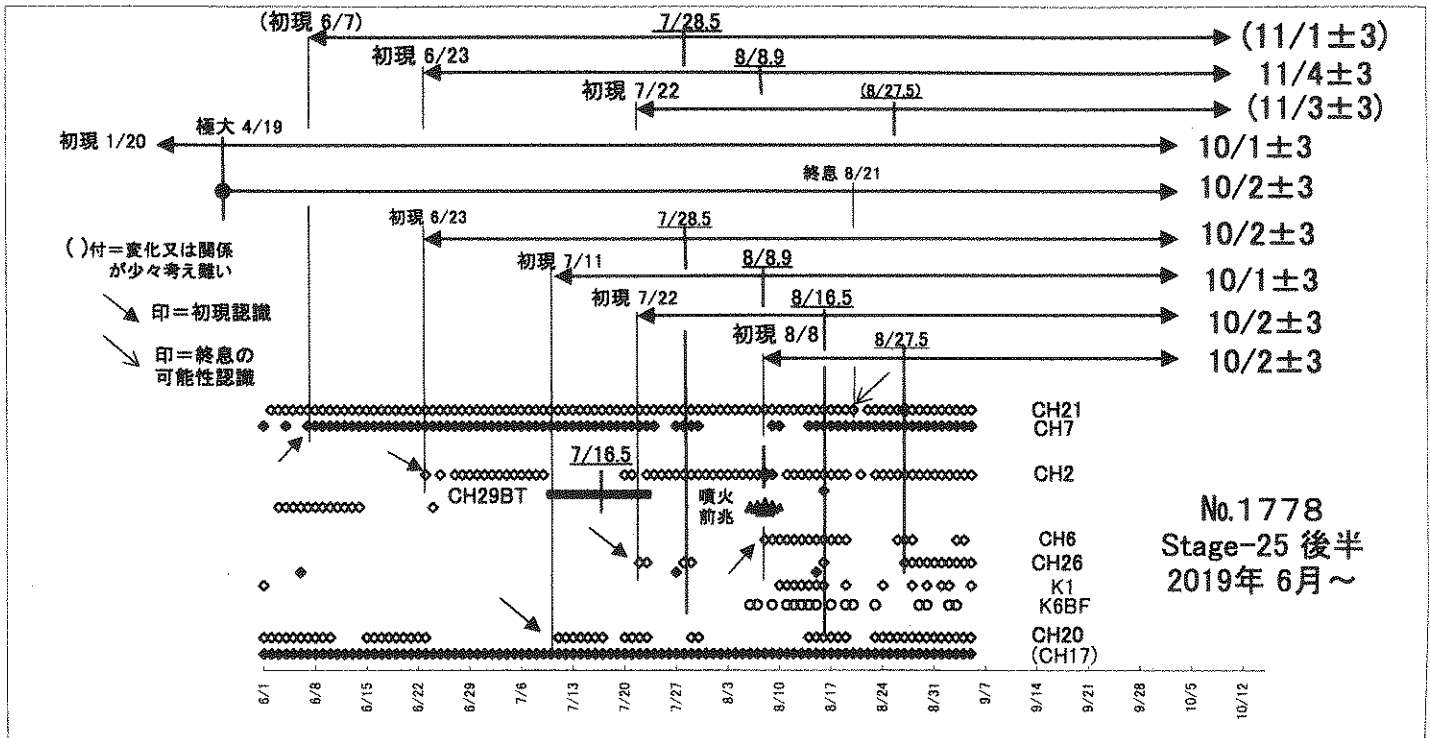


原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1996

No.1778 長期継続 大型地震推定前兆 9/17±根拠失う 10/2±の可能性検討

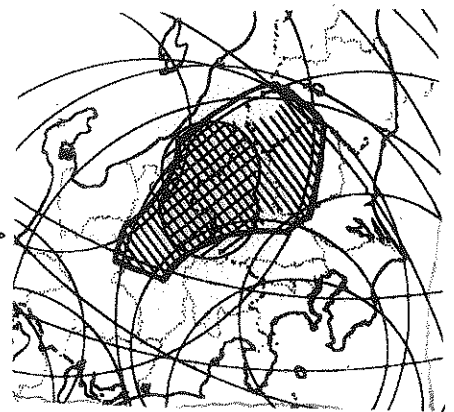


◆9/17±発生の可能性 根拠失う

7/16極大認識に対するK6-BF 終息が9/17±発生可能性の条件でしたが、9/3段階で微弱なBFが確認でき、9/21以前発生の可能性が考えにくくなりました。他の関係も考えにくい間となり、9/17±発生の可能性を支持する根拠を失いました。9/17±対応地震発生は否定。

◆10/2±発生の可能性を検討 8/8夜極大の噴火前兆もCH02極大と同日で極大認識

No.1778長期前兆第25ステージ(現在)の本年6月以降の前兆出現状況を上図に示しました。問題となるのは8/8夜に極大認識される噴火前兆。上図では▲印で出現を示してあります。八ヶ岳のCH02は、8/8夜から8/9未明にかけて特異前兆が顕著で極大認識できます。このことから噴火前兆とCH02は同じ時間帯に極大認識でき7/11初現に対する極大の可能性有。噴火前兆が通常の地震前兆と関係するのは観測歴上初。火山近傍地殻地震前兆が通常のBF地震前兆と関係した例は熊本地震が唯一の過去例。従って噴火前兆に対する活動時期も通常の噴火と異なり、地震前兆との関係で推定されることとなります。上関係が正しい場合は、10月2日±2時期発生の可能性が示唆され、考えやすい状況です。



◆11/3±の可能性も示唆されるが根拠薄弱で少々考えにくい

他の可能性として上図のとおり11/3±の可能性も否定はできませんが、CH7の6/7初現と、7/22初現に対する8/27.5極大の関係も若干考え難く現状は11/3±よりも10/2±発生の可能性の方が考えやすい状況です。

◆今後の前兆終息変化を観測確認し、正しい発生時期を求める所存です。

- ◆推定領域：上図斜線域(複斜線域=参考推定域)
- ◆推定規模：M7.8±0.5
- ◆推定時期：前兆終息確認後推定 まだ未確定
但し最も早い場合=10月2日±2の可能性有
- ◇推定地震種：震源浅い陸域地殻地震(火山近傍域)
(推定領域内火山(浅間山or草津白根)で地震発生)
(と合前後して噴火が発生する可能性も示唆される)
- ◇推定地震発生時刻：午前9時半±1時間半
(又は 午後4時±3時間)

※本続報は昨日9/4にE-mail・FAXで配信した地震前兆検知観測情報

の内容を一部修正して転載したものです。ご了承下さい。本HPは、PHP新書「地震予報」読者の皆様へ、文中に書いたNo.1778地震前兆について、その後の続報をお伝えするためのHPです。本HPではNo.1778前兆以外の地震前兆については記せません。通常の他の地震前兆につきましては、日々E-mail/FAXで配信しております「地震前兆検知観測情報・公開実験」でのみ公開しております。現在まで長期に渡り、地震発生推定内容と実際の発生地震との相関は極めて良好で、予測成功が継続中。検知可能な地震が推定されない場合は、検知可能地震発生の可能性無しと公表しております。地震前兆検知観測情報配信の「公開実験」へ参加して下さい方を随時募集中です。